

病第1号議案

横浜市病院事業の設置等に関する条例の一部改正

I 脳血管医療センターの病院名称変更について

1 趣旨

脳血管医療センターは、第2次横浜市立病院中期経営プランに基づき、平成24年度から、医療機能拡大の取組を進めてきました。現在は、脳血管疾患以外の患者さんも数多く脳血管医療センターを受診しています。

今後も市民が安心・納得してこの病院をご利用いただけるよう、医療機能拡大に合わせ、**病院名称を「横浜市立脳卒中・神経脊椎センター」へ変更**するため、条例の改正を行います。

また、設置当初の診療科目の計画についても現在の機能に合わせ、文言整理を行います。

新名称案 横浜市立 脳卒中・神経脊椎センター

2 これまでの経緯

(1) 平成22年8月 経営改善について諮問した「横浜市立病院経営委員会」からの答申

(答申の要旨)

- ・脳卒中は地域医療需要にあわせた病床数へ削減のうえ、地域医療ニーズを満たせるよう病床の有効活用を検討すべき
- ・**機能見直しにあわせて病院の名称も変更**し、対外的にも脳血管医療センターは生まれ変わったというメッセージを出す工夫も必要

(2) 平成24年3月 「第2次横浜市立病院中期経営プラン」策定（計画期間：平成24年度から26年度）

(プランの要旨)

- ・脳血管疾患医療機能の維持・向上
- ・脊椎脊髄疾患、神経疾患に対する医療機能の拡大・拡充
- ・**医療機能の充実に合わせて、病院名称についても見直し**

(第2次中期経営プラン期間中これまでの主な取組)

《平成24年度》

- ・脊椎脊髄外科開設（脊椎脊髄外科医2名採用）
- ・手術室増設（1室から3室）及び病棟再編工事、3テスラMRI及び手術用医療機器の整備

《平成25年度》

- ・「脳卒中・神経疾患」「脊椎脊髄疾患」の疾患別センターの開設、脊椎脊髄外科部長1名を含む脊椎脊髄外科医2名増員
- ・回復期リハビリテーション病棟増床工事の実施（91床から102床）

《平成26年度》

- ・神経内科部長1名含む神経内科医3名の採用
- ・医師会・教育委員会と連携した側弯症診療体制の構築及びsterEOSイメージングシステム導入

(3) 平成26年2月 「横浜市立病院経営評価委員会」へ病院名称の変更について諮問

3 経営評価委員会での検討状況

(1) 横浜市立脳血管医療センター名称部会の設置（平成26年2月19日経営評価委員会）

（メンバー）

・藤井 清孝	（学校法人北里研究所理事長）	※委員長・経営評価委員
・篠原 弘子	（公益社団法人神奈川県看護協会会長）	※経営評価委員
・林 貞三	（横浜市磯子区連合町内会長会監事）	※外部委員
・古谷 正博	（一般社団法人横浜市医師会会長）	※経営評価委員
・吉井 宏	（公益社団法人横浜市病院協会会長）	※外部委員

(2) 名称部会での検討（平成26年4月10日～7月7日・計4回開催）

ア 市民・利用者等へのアンケート

（実施状況概要）

・ヨコハマeアンケート	（平成26年5月1日～5月15日実施・回答数815件）
・利用者アンケート	（平成26年5月1日～5月21日実施・回答数782件）
・ホームページでのアンケート	（平成26年5月1日～5月21日実施・回答数28件）
・脳血管医療センター職員アンケート	（平成26年5月1日～5月21日実施・回答数399件）

イ 有識者への意見聴取

（脳卒中分野）

小林祥泰 島根大学学長（神経内科学）、山口武典 国立循環器病研究センター名誉総長

（神経疾患分野）

鈴木則宏 慶応義塾大学医学部神経内科教授、祖父江元 名古屋大学大学院神経内科学教授

（脊椎脊髄疾患分野）

齋藤知行 横浜市立大学医学部長・整形外科教授、根尾昌志 大阪医科大学整形外科学教授

（病院経営分野）

河原和夫 東京医科歯科大学医療管理学分野教授

ウ 名称部会案選定の考え方

(7) アンケート及び有識者の意見を参考にしつつ、これまでの機能拡大の状況を確認したうえで、横浜にある専門病院として「現在の病院機能を表す言葉」「横浜」「センター」を組み合わせたものとする

(1) 機能を表す言葉は、

- ・専門病院として今後も横浜における脳卒中医療の基幹施設であることを示す「脳卒中」
- ・今後、神経難病等、幅広い疾患に対応していくことを示す「神経」
- ・新たに取り組み、着実に診療実績を上げるとともに、側弯症など学校保健事業と連携した取組を行っている領域である「脊椎」

をそれぞれ選定

⇒部会案「横浜市立 脳卒中・神経脊椎センター」

(3) 経営評価委員会からの答申

平成26年7月30日経営評価委員会において部会案を審議、同日付、病院事業管理者あて答申

4 施行期日

企業管理規程で定める日（平成27年1月1日予定）

II 横浜市立市民病院再整備基本設計事業者評価委員会の設置について

1 趣旨

市民病院再整備の基本設計事業者選定に当たっては、病院運営の効率性、環境や都市計画への配慮、建設コストの縮減等について、最大限設計に活かしていくことのできる、優れた能力を持った事業者を選定する必要があることから、事業者の能力について多面的に評価することのできるプロポーザル方式を採用する予定です。

受託者を特定する際の提案書等の評価に当たっては、透明性や専門的知見を確保するため、評価委員会に学識経験者等の外部有識者を加える必要があり、地方公営企業法第14条の規定に基づく附属機関として設置するものです。

このため、横浜市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正します。

2 附属機関の名称等

(1) 名称

横浜市立市民病院再整備基本設計事業者評価委員会

(2) 担当事務

横浜市立市民病院再整備事業の基本設計における事業者の提案に対する評価その他当該事業者の選定に関する事務

(3) 委員の定数

10人以内

【参考】委員構成の考え方

公営企業としての病院経営の観点

病院運営や医療・サービス提供の観点

公共建築物としての観点

病院建築の特殊性・専門性の観点

ユニバーサルデザインや環境配慮など建築環境の観点

建設コスト縮減の観点

などから委員を選定

3 施行期日

公布の日から施行します。

4 関係法令

地方公営企業法

第14条第1項 地方公営企業を経営する地方公共団体に、管理者の権限に属する事務を処理させるため、条例で必要な組織を設ける。

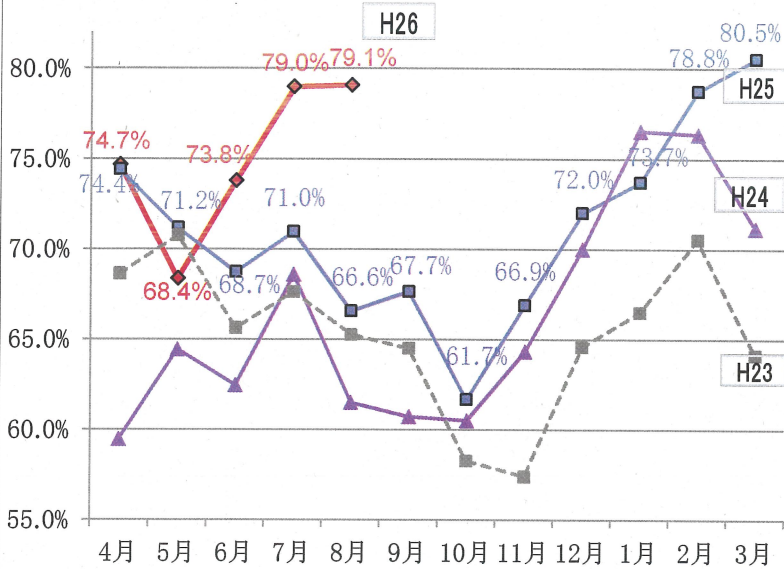
5 基本設計のスケジュール(予定)

9月下旬	条例公布後、評価委員会を設置 第1回評価委員会開催（提案項目、評価方法等確認）
9月下旬～10月上旬	基本設計事業者の公募開始
10月中	参加資格審査、質問・回答
11月上旬	「基本設計提案書」の提出締切
11月中旬～下旬	第2回・第3回評価委員会開催（一次評価、二次評価）
12月上旬	評価結果を病院経営局業者選定委員会に付議した後、受託候補者を特定。契約締結
12月上旬～28年3月	基本設計業務実施

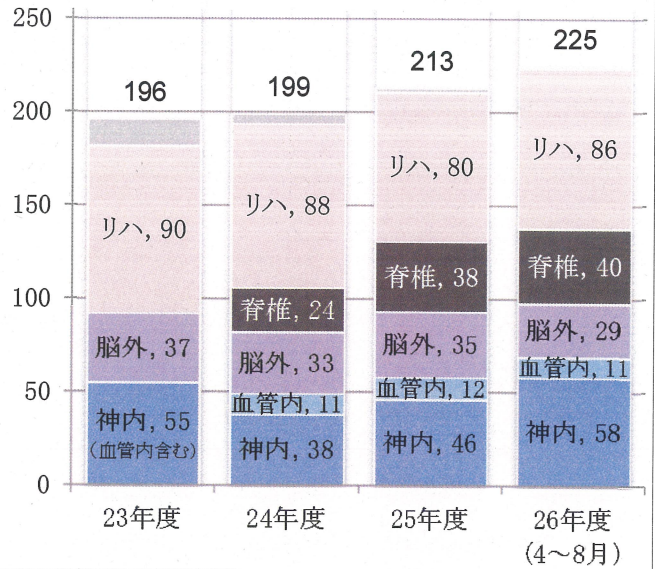
【別紙】 脳血管医療センターの主な経営指標の推移

病床利用率・入院患者数の状況

○病床利用率の推移
【H23.4月～月ごと】

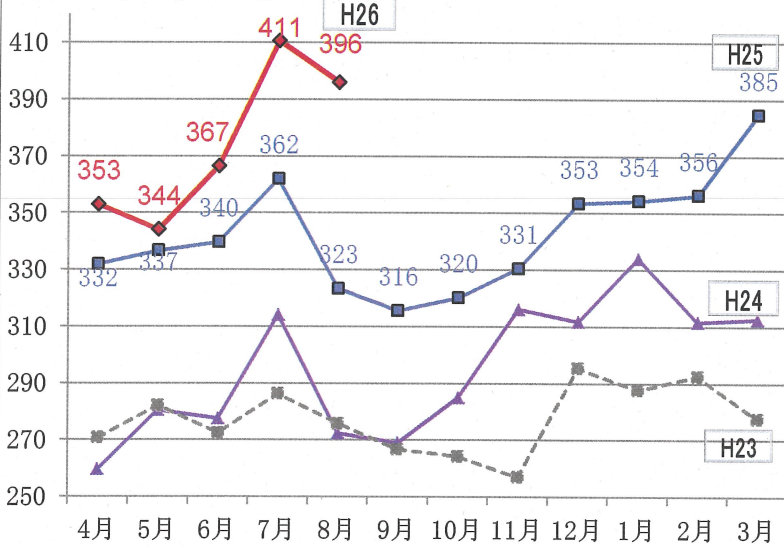


○診療科別 一日あたり入院患者数(単位:人/日)
【H23～25は通年・H26は8月末時点】

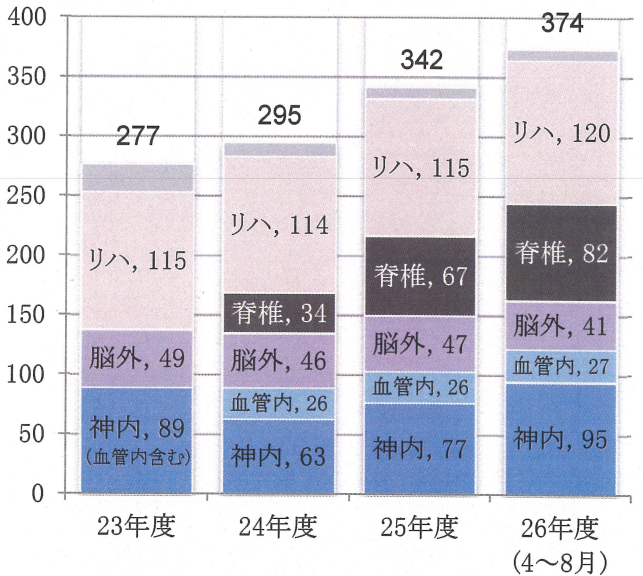


入院・外来収益の状況

○病院全体 入院・外来収益の推移(単位:百万円)
【H23.4月～月ごと】

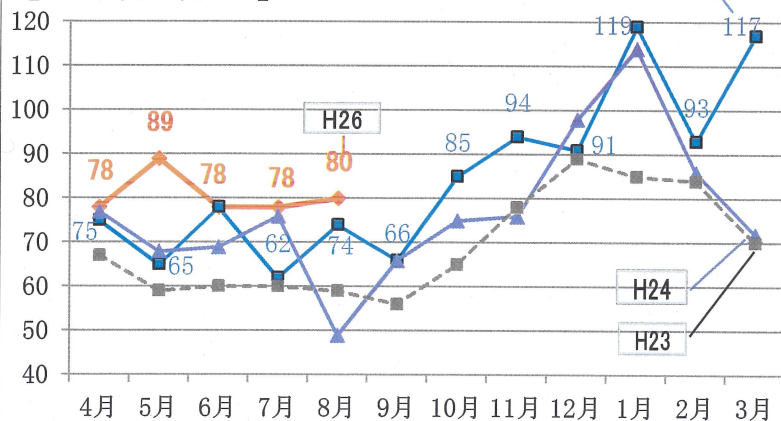


○診療科別 月平均入院・外来収益(単位:百万円)
【H23～25は通年・H26は8月末時点】

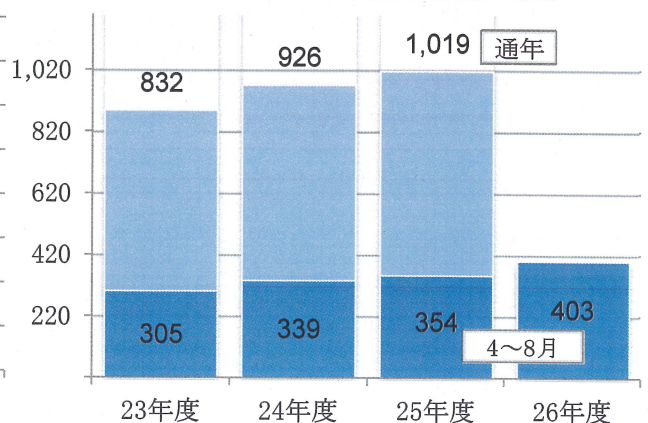


救急車受入状況

○救急車受入件数の推移①(単位:件)
【H23.4月～月ごと】



○救急車受入件数の推移②(単位:件)
【H23～通年及び8月末時点累計値比較】



平成26年7月30日

横浜市病院事業管理者
高橋 俊毅 様

横浜市立病院経営評価委員会
委員長 田中 滋

答 申 書

平成26年2月19日付け病計画第140号をもって諮問のあった、脳血管医療センターの病院名称について、横浜市立脳血管医療センター名称部会を設置し、別添のとおり検討を行った結果、当委員会として、「横浜市立 脳卒中・神経脊椎センター」とすることを答申する。

平成 26 年 7 月 14 日

横浜市立病院経営評価委員会
委員長 田中 滋 様

横浜市立病院経営評価委員会
横浜市立脳血管医療センター名称部会
部会長 藤 井 清 孝

報告書

横浜市立脳血管医療センターの病院名称について

横浜市立病院経営評価委員会 横浜市立脳血管医療センター名称部会で検討を進めてきた病院名称案について、別紙のとおり横浜市立病院経営評価委員会へ報告します。

横浜市立病院経営評価委員会
横浜市立脳血管医療センター名称部会

報告書

平成 26 年 7 月 14 日

目次

はじめに	1
横浜市立脳血管医療センターの新名称について	2
検討経過	3
委員名簿	4
資料1 横浜市立脳血管医療センターの概要について	5
資料2-1 有識者への意見聴取（名称についての意見）	7
資料2-2 有識者への意見聴取	8
資料3-1 アンケート集計結果	16
資料3-2 アンケート集計結果一覧	17
資料3-3 eアンケート集計結果	18
資料3-4 院内設置アンケート集計結果	25
資料3-5 職員アンケート集計結果	32
資料3-6 ホームページ上アンケート集計結果	38

(参考資料)

横浜市立病院経営評価委員会運営要綱	41
-------------------	----

はじめに

平成 26 年 2 月 19 日、横浜市立病院経営評価委員会は、横浜市病院事業管理者から「横浜市立脳血管医療センターの病院名称について」の諮問を受けました。そこで、横浜市立病院経営評価委員会横浜市立脳血管医療センター名称部会を設置し、医療関係団体・地域の方を外部委員に加えるとともに、外部の有識者や市民・利用者などのご意見を幅広く伺いながら検討を進めていくこととしました。

名称部会は、平成 26 年 4 月 10 日に第 1 回を開催し、その後、3 回名称部会を開催しました。

名称部会では、脳血管医療センターの機能拡充の状況を確認したうえで、有識者の意見聴取では、有識者の選定、質問内容の決定を行い、アンケート調査では、設問の設定、対象者の選定を行いました。

その上で実施した有識者の意見聴取の結果及びアンケート調査の結果を参考にし、名称部会の選定案を議論してきました。

名称選定にあたっては、これまでの先進的な脳卒中医療の実績を評価するとともに、今後も脳卒中医療の基幹施設として機能強化を図っていくことを主眼としました。また、質の高い脳卒中診療を支えるためには、併存する疾患を含めた総合的な神経系診療機能の整備が必要であり、神経部門、脊椎部門についても一層の機能拡充を図っていくことを示す名称を選定しました。

平成 26 年 7 月 7 日、第 4 回名称部会において名称案を選定しましたので報告します。

平成 26 年 7 月 14 日

横浜市立病院経営評価委員会横浜市立脳血管医療センター名称部会
部会長 藤井 清孝

横浜市立脳血管医療センターの新名称について

1 病院名称の考え方

○病院名称は、横浜にある専門病院として、現在の「病院機能をあらわす言葉」と「横浜」と「センター」を組み合わせたものとします。

○現在の病院の機能をあらわす言葉として、次の言葉を名称に入れます。

[脳卒中]

「脳卒中」は一般に広く使用している言葉で、名称に入れることで、今後も横浜市の「脳卒中」医療の基幹施設として運営していくことを示します。

なお、医療法に基づき定める医療計画においても「脳卒中」について対策が必要な5疾病の一つとされ、脳卒中学会、脳卒中協会も「脳卒中」を使用しています。現在、国会で審議されている法律案「脳卒中对策基本法」にも「脳卒中」が使用されています。

広く使用されている疾患名を使用することで、より病院機能がわかりやすい名称とします。

[神経]

医療機能拡充の中で広く神経疾患に対応してきています。

「神経」を名称に入れることで、神経難病や腫瘍等広く中枢神経（脳、脊髄）の疾患に対応することを示します。

[脊椎]

医療機能拡充の中で新たに脊椎領域にも取り組んでおり、着実に診療実績をあげています。特に側弯症については、学校保健事業と連携し基幹施設として協力しています。

「脊椎」を名称に入れることで側弯症等脊椎疾患に対応することを示します。

2 新名称案

横浜市立 脳卒中・神経脊椎センター

検討経過

横浜市立脳血管医療センター名称部会については、これまでに4回開催しており、この中で有識者への意見聴取及びアンケートの実施方法、有識者意見聴取及びアンケート結果を踏まえた病院名称案の議論を実施しています。

	開催年月日	開催場所	主な議事
第1回	平成26年 4月10日(木)	崎陽軒本店 6階3号室	<ol style="list-style-type: none"> 脳血管医療センターの病院名称について <ul style="list-style-type: none"> 脳血管医療センターの概要 脳血管医療センター名称の考え方 名称案候補について 今後のスケジュール 市民・利用者からの意見聴取
第2回	平成26年 4月22日(火)	崎陽軒本店 6階2号室	<ol style="list-style-type: none"> 脳血管医療センターの病院名称について <ul style="list-style-type: none"> アンケート・有識者への意見聴取について 脳血管医療センター新名称についてのアンケート 横浜市立施設の名称例 今後のスケジュール
第3回	平成26年 6月23日(月)	崎陽軒本店 6階2号室	<ol style="list-style-type: none"> 脳血管医療センターの病院名称について <ul style="list-style-type: none"> 有識者への意見聴取 脳血管医療センター新名称についてのアンケート 集計結果
第4回	平成26年 7月7日(月)	崎陽軒本店 6階2号室	<ol style="list-style-type: none"> 「脳卒中から助かる会」からの要望について 脳血管医療センターの病院名称について <ul style="list-style-type: none"> 有識者への意見聴取 脳血管医療センター新名称についてのアンケート 脳血管医療センターの新名称について

委員名簿

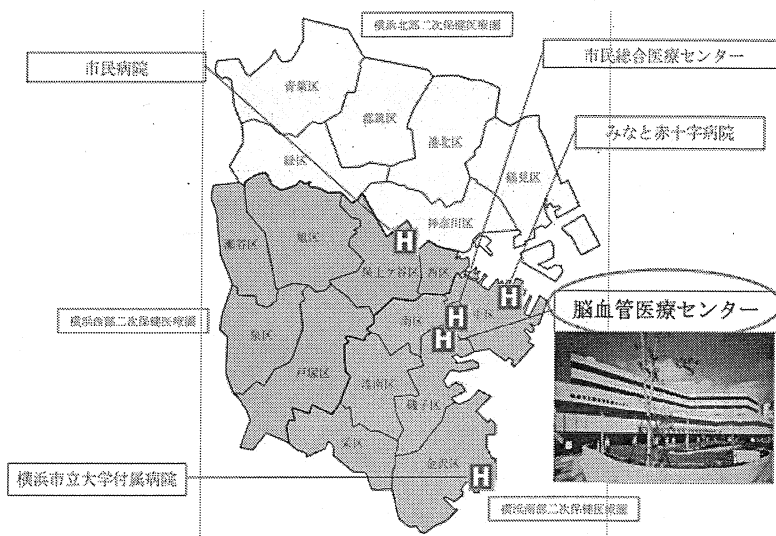
氏名	現職
篠原 弘子 しのはら ひろこ	公益社団法人神奈川県看護協会 会長
林 貞三 はやし ていぞう	横浜市磯子区連合町内会長会 監事
藤井 清孝 ふじい きよたか	学校法人北里研究所 理事長
古谷 正博 ふるや まさひろ	一般社団法人横浜市医師会 会長
吉井 宏 よし い ひろし	公益社団法人横浜市病院協会 会長

(五十音順・敬称略)

横浜市立脳血管医療センターの概要について

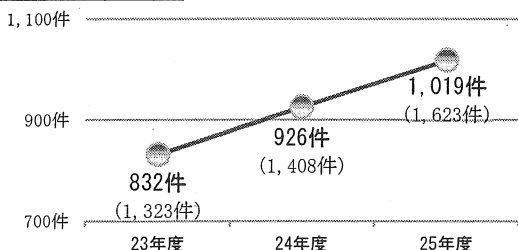
1 施設概要

- 所在地 磯子区滝頭一丁目2番1号
- 開設年月日 平成11年8月1日
- 許可病床数 300床
(病床構成)
 - ・回復期リハビリテーション病棟 102床
 - ・一般病床 180床
 - ・SCU(脳卒中ケアユニット) 12床
 - ・ICU(集中治療室) 6床
- 診療科(常勤医師26名)
神経内科・脳神経外科・脳神経血管内治療科
脊椎脊髄外科・リハビリテーション科
循環器内科・泌尿器科・麻酔科・放射線科
- 疾患別センター
脳卒中・神経疾患センター
脊椎脊髄疾患センター

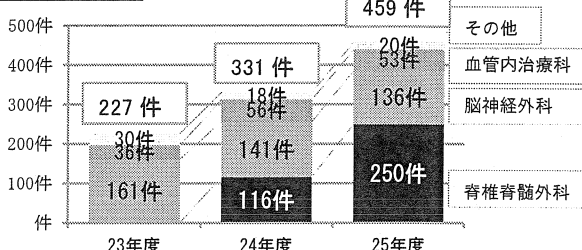


2 主な運営実績 (※25年度実績は速報値)

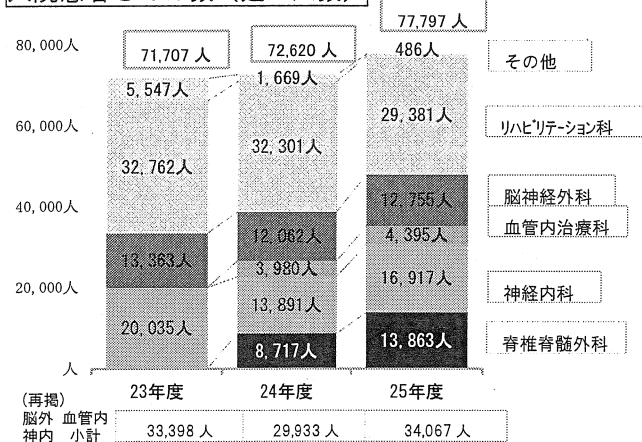
救急車の受入件数()内は救急患者総数



手術実施件数



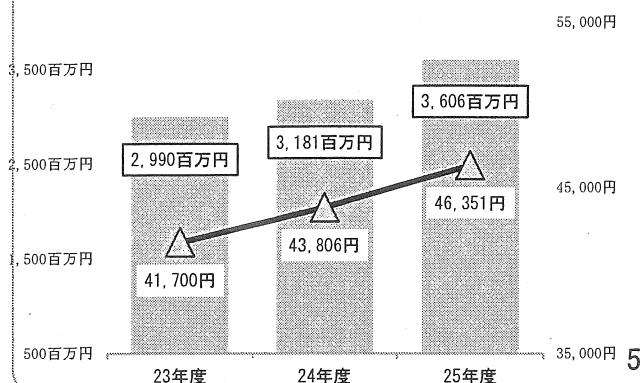
入院患者さんの数(延べ人数)



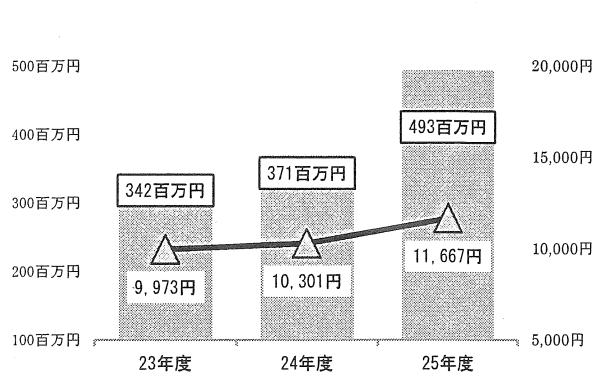
外来患者さんの数(延べ人数)



入院稼働額・診療単価



外来稼働額・診療単価



3 脳血管医療センターの医療機能拡大に向けたこれまでの取組

「横浜市立病院経営委員会」からの答申【平成22年8月】

平成21年6月 外部有識者による諮問機関「横浜市立病院経営委員会」を設置し、「脳血管医療センターの経営改善」等を諮問
平成22年8月 委員会答申

(答申の抜粋)

- ・脳血管医療センターの医療圏において、脳卒中の急性期から回復期、維持期を通じてどれくらいの医療需要があるかを精査し、その結果について検討する必要がある。検討の結果、需要がなければ脳卒中の病床数を削減する必要がある。こうして生じた余剰病床については、地域の医療ニーズを十分満たせるように活用すべきである
- ・場合によっては、機能見直しにあわせて病院の名称も変更し、対外的にも脳血管医療センターは生まれ変わったというメッセージを出す、というような工夫も必要

「第2次横浜市立病院中期経営プラン」の策定【平成24年3月】

経営委員会からの答申を踏まえ24年度～26年度の3か年の経営改善計画を策定

(プランに定める経営方針)

- ・現行の脳血管疾患医療機能の維持・向上
- ・脊椎脊髄疾患等神経疾患への医療機能の拡大・拡充
- ・医療機能の充実に合わせて、病院名称についても見直し
- ・収支目標・約6億円の収支改善【経常収支 H22:△939 百万円→H26:△358 百万円】

計画期間中のこれまでの取組【平成24年4月～26年4月】

【施設・設備・医療機器の整備】

○病棟再編及び手術室増設工事

- ・手術室増設工事（1室⇒3室への増室工事）
- ・病棟再編工事（SCUの移転・独立病棟化等）
- ・回復期リハビリテーション病棟増床工事（91床→102床への増床）

○医療機器整備

- ・3テスラMRIの導入
- ・脊椎脊髄外科開設に伴う機器整備（手術用ナビゲーションシステム・全脊椎撮影装置・骨密度測定装置等）
- ・手術室増設等に伴う機器整備（手術用顕微鏡・全身麻酔装置等）

【診療体制の充実】

○脳血管疾患、神経疾患

- ・脳血管疾患専門医の確保（常勤医師数23年度末10名→26年4月12名）
- ・基礎疾患又は合併症対応のための内科系診療体制の整備
- ・「脳卒中・神経疾患センター」の設置（H25.4）

○脊椎脊髄疾患

- ・脊椎脊髄疾患専門医の確保（常勤医師数23年度末0名→26年4月4名）
- ・麻酔科医の体制整備（常勤医師1名+非常勤医師各日1名等）
- ・「脊椎脊髄疾患センター」の設置（H25.4）

有識者への意見聴取（名称についての意見）
（平成26年5月8日（木）から5月26日（月）まで）

脳 卒 中	小林祥泰 島根大学学長 (神経内科学)	<p>○患者数も脳卒中が一番多い。少なくとも「脳卒中」或いは「脳血管」を入れたほうがよい。</p> <p>○神経難病を入れるのであれば、脳血管神経センターのようにしてはどうか。</p> <p>○神経脊椎センターにすると、脳卒中専門医は来なくなる。</p> <p>○「脳血管（脳卒中）神経脊椎センター」ならばよいのではないか。</p> <p>○院内に領域別センターを作るのであれば、「脳卒中センター」がよい。</p>
	山口武典 国立循環器病 研究センター 名誉総長	<p>○診療領域を付けると全て付けないとうまくいかない。</p> <p>○「さくら銀行」や「南横浜病院」のように診療領域は何も入れず病院の中に脳卒中センター、神経センター、脊椎センターを作る。</p> <p>○サブ領域に名前を入れないと患者は来ない。脊椎の患者は「脳血管センター」に行くのは気乗りがしない。なんとなく不安なのではないか。</p> <p>○特に横浜では話し合いを上手く進めることが最も大切になる。</p> <p>○「横浜脳血管・神経・脊髄センター」</p> <p>○「横浜〇〇病院」としてその下に（横浜）脳血管センター、（横浜）神経センター、（横浜）脊髄・脊椎センターと並べる。</p>
神経 疾患	鈴木則宏 慶應義塾大学 医学部 神経内科教授	<p>○病院の機能をそのまま表すと「横浜神経センター」。しかし、脳卒中を扱うならアクティブな病院。脊髄をどう取り扱うか。</p> <p>○キーワードは、「脳」、「神経」、「脊髄」。それに何か魅力的な言葉を加える。</p> <p>○脊髄は神経だから「神経」と「脊髄」は並列できない。</p> <p>○「脊髄」を入れるなら「脳」と「脊髄」。リハビリ病院の「機能回復」もキーワード。</p> <p>○市民が機能を理解しやすい名称にすべき。「横浜市 脳・脊髄疾患治療センター」</p>
	祖父江元 名古屋大学大学院 医学系研究科 神経内科学教授	<p>○病院機能からは、神経という枠でくれるので「神経」は入れた方がよい。</p> <p>○東京でも静岡でもなく、横浜にあるのだから「横浜」は付けた方がよい。</p> <p>○昔は「〇〇病院」だったけど、今は「センター」の方がよい。</p> <p>○「横浜神経センター」、「横浜神経疾患センター」、「横浜神経医療センター」。近い名称では「静岡てんかん・神経医療センター」がある。</p>
脊椎 脊髄 疾患	齋藤知行 横浜市立大学 医学部長・ 整形外科教授	<p>○市民の人たちの頭の中のイメージと一致するような名称が良い。</p> <p>○「脳」、「脊髄」ならば「神経」の方がよい。</p> <p>○「脊椎」、「神経」、「機能再建」、「機能回復」がキーワード。</p> <p>○例えば、「神経脊椎機能回復センター」。</p>
	根尾昌志 大阪医科大学 整形外科学教授	<p>○脊椎の患者や医師を引き付けるために、脊椎脊髄は是非盛り込みたい。</p> <p>○脊椎脊髄を入れた場合、「脳」「神経」「脳血管」のどれを入れるか。</p> <p>○リハビリが充実しているので、「機能再建」か「機能回復」を入れ、ポジティブな名前。「脳脊椎脊髄機能回復センター」。</p> <p>○「神経」を入れると脊髄も神経だから「脊椎」でよい。「脊椎・神経機能回復センター」</p> <p>○「脳血管」では狭いので、「脳神経」、「神経」の方がよいのではないか。</p> <p>○地名だけだと特色が出ない。専門病院なら名称に特色を盛り込むべき。</p> <p>○過去の歴史を払拭するなら「脳血管」を外した方が、一新したというイメージが出る。</p>
病院 経営	河原和夫 東京医科歯科大学 大学院医歯学系 専攻政策科学 分野教授	<p>○脳卒中に加え、神経難病と脊椎脊髄を中心的に行っていることを市民に伝える名称。</p> <p>○脳卒中、神経疾患、脊椎脊髄疾患の共通の性格は、QOL（生活の質）、ADL（日常生活動作）が絡んでくる。そのことを活かすことができる病院名称があると良い。</p> <p>○標榜している機能なら「脳」、「血管」、「神経」、「整形外科」、「医療センター」を一つにする言葉。共通のキーワードは「神経」と「運動」。</p> <p>○繋ぎ合わせると、「運動機能向上改善医療センター」、「身体活動生活機能向上医療センター」、これを短い言葉で表せられたら良い名称になる。「統合脳運動疾患医療センター」</p>

有識者への意見聴取

1 実施期間

平成26年5月8日(木)から5月26日(月)まで

2 有識者

- | | | | |
|-----|---------------------|-------|---------|
| I | 島根大学学長 | 小林 祥泰 | (神経内科学) |
| II | 国立循環器病研究センター 名誉総長 | 山口 武典 | |
| III | 慶應義塾大学医学部神経内科 教授 | 鈴木 則宏 | |
| IV | 名古屋大学大学院神経内科学 教授 | 祖父江 元 | |
| V | 横浜市立大学医学部長・整形外科教授 | 齋藤 知行 | |
| VI | 大阪医科大学整形外科学 教授 | 根尾 昌志 | |
| VII | 東京医科歯科大学 医療管理学分野 教授 | 河原 和夫 | |

I 島根大学学長 小林 祥泰 (神経内科学)

1 脳血管医療センターが行った、脳卒中医療の充実及び神経疾患や脊椎脊髄疾患への医療機能拡大への取組についての評価

- 脳卒中は時間との闘いであり、脳血管医療センターはt-P Aの件数は、一番である。
- 神経難病は大事ではあるが、慢性疾患である。高齢化に伴い件数も増えるが、大幅に増えるわけではない。
- 脊髄疾患を行うのであれば、脊髄の神経を扱う脳外科医が必要であり、脳血管医療センターにはその脳外科医がいる。整形外科医と脳外科医が協力して手術をすることは、すごくよいことである。
- リハビリの専門医が5人もいる施設はなかなか無い。このような充実したリハビリテーションが最も必要となるのが、脳卒中である。
- 脳卒中の急性期は100床位が適当。秋田脳研も100床位である。

2 医療機能が拡充した脳血管医療センターの名称について

- 患者数も脳卒中が一番多いので、少なくとも「脳卒中」あるいは「脳血管」を入れたほうがよい。
- 神経難病を入れるのであれば、脳血管神経センターのようにしてはどうか。
- 神経脊椎センターにすると、脳卒中専門医は来なくなる。
- 脳血管（脳卒中）神経脊椎センターならばよいのではないか。
- 院内に領域別センターを作るのであれば、「脳卒中センター」がよい。

3 今後の脳血管医療センターの取組の方向性について

- 脳卒中はメインとするべき。脳梗塞・脳出血は減少しているが、今後、高齢化に伴い心房細動による心原性脳塞栓は増える。
- 心原性脳塞栓はt-P Aの好適応例である。血管内治療の対象でもある。血管内治療を行う核となる医師がいれば、若い医師も入ってくるのではないか。
- 市立病院である以上、市民が最も求めているのは救急医療である。したがって、脳卒中救急の充実が第一である。脳卒中救急に対応するためには、医師をそろえる必要がある。
- 救急をきちんと受け入れ、病院の評判が向上すれば、患者さんの希望により、救急搬送患者数も増加するのではないか。
- 脳卒中の合併症が診られるような総合医を育てるべき。救急搬送患者には、低血糖やてんかんの患者も混じる。神経も脊椎も内科的・外科的合併症はある。循環器・糖尿病・高血圧など1人ずつ来てもらうのは難しいだろう。総合医的に幅広く診られる医師がいれば、合併症にも対応できる。総合医的な見方が最も求められる救急は脳卒中である。
総合診療科の研修施設となるようなことも検討してはどうか。
- T I Aの診療を考えると、動脈硬化もあるので、内科も診られる医師が必要。
- 若手を育てられる医師に来てもらい、臨床研究を充実させること。学会等で病院の評価が高まれば、若い医師も来たがるだろう。

II 国立循環器病研究センター 名誉総長 山口 武典

1 脳血管医療センターが行った、脳卒中医療の充実及び神経疾患や脊椎脊髄疾患への医療機能拡大への取組についての評価

- 赤字経営を放置することはできない。病院経営が成り立たなければ、どうしようもない。まずは、しっかりした財政を確立する必要がある。
- 経営改善のために、脊椎疾患、神経疾患を始めた。それならば、脊椎・神経もしっかりやらなければならない。
- 神経内科と脳神経血管内治療科で100床、脊椎外科と脳外科で100床、リハビリで100床ということだが、まずは、病床利用率の向上を目指す必要がある。

2 医療機能が拡充した脳血管医療センターの名称について

- 診療領域を付けるとすると、全て付けないとうまくいかないのではないかと。
- あるいは、「さくら銀行」や「南横浜病院」のように、診療領域は何も入れず、病院の中に、脳卒中センター、神経センター、脊椎センターを作る。
- サブ領域だとしても、名前に入れないと、患者は来ないだろう。脊椎の患者にとっても「脳血管センター」に行くというのは、気乗りがしないし、なんとなく不安なのではないか。特に横浜では話し合いを上手く進めることが最も大切になると思う。
- 「横浜脳血管・神経・脊髄センター」
- 「横浜〇〇病院」としてその下に脳血管センター、神経センター、脊髄・脊椎センターと並べる。あるいは、その下に横浜脳血管センター、横浜神経センター、横浜脊椎・脊髄センターと並べる。

3 今後の脳血管医療センターの取組の方向性について

- 脳卒中診療をバックアップするグループが必要だが、実際には難しいだろう。出来れば全身を診れる脳血管内科医がほしい。いずれにしても、すぐにコンサルテーションできる状況でなければならない。
- 専門に特化した病院は、近くに連携できる病院を確保することは不可欠である。国立循環器病センターでも消化器の重症合併症は、他の病院に転院させている。横浜市立大学との連携をしっかりとすべきである。
- 脳卒中は全身病である。特にリスクとなる高血圧や糖尿病等はある程度診られる脳卒中医が望ましい。
- 脳卒中の専門病院がなぜ、合併症があると診られないのか、専門病院こそ重症の脳卒中を診るべきではないか、という意見が出るのもある意味、当然とも言える。なぜなら、脳卒中は全身病だから。
- 脳卒中の核となる人材が東京の大学に赴任している。そことの連携を図るとよいのではないかと。
- シニアレジデントが脳卒中を勉強しに来るような病院にすべき。スタッフも同じで、働き甲斐のある病院なら、医師はいくらでも集まると思う。
- 脳卒中基本法の成立に向けて準備をしている。都道府県で脳卒中对策推進計画を策定することとなる。その中で、脳卒中の中心的施設を目指してはどうか。

Ⅲ 慶應義塾大学医学部神経内科 教授 鈴木 則宏

1 脳血管医療センターが行った、脳卒中医療の充実及び神経疾患や脊椎脊髄疾患への医療機能拡大への取組についての評価

- 中枢神経を扱う病院となる。民間病院では経営が成り立たないが、市立病院は利潤追求型ではないので、中枢神経を専門に扱うことは強みとなる。特化してレベルアップさせる状況をつくっていけば良いのではないか。
- 中枢神経と神経疾患を中心とし、脊髄をポイントとして置くことで、神経内科領域をすべてカバーできる病院となる。
- 国立精神・神経医療センターや都立神経病院より、神経内科がカバーする領域は広がる。しっかりした指導者を置けば、神経内科医の養成にもメリットがある。

2 医療機能が拡充した脳血管医療センターの名称について

- 病院の機能をそのまま表すと「横浜神経センター」、しかし、脳卒中を扱うなどもっとアクティブな病院であり、脊髄をどう取り扱うか考える必要がある。
- キーワードは、「脳」、「神経」、「脊髄」。それに何か魅力的な言葉を加える。
- 脊髄は神経だから「神経」と「脊髄」は並列できない。「脊髄」を入れるなら、「脳」と「脊髄」。部位と機能をうまくマッチングする。リハビリ病院でもあり「機能回復」もキーワードとなる。
- 市民が機能を理解しやすい名称にすべきである。
- 「横浜市 脳・脊髄疾患治療センター」を提案したい。

3 今後の脳血管医療センターの取組の方向性について

- 施設完結型は、今の医療制度の中では経営が困難である。地域完結型を考える必要がある。
- うまく患者の流れをつくるために、後方病院をいくつか確保し、そこと在宅との関係を確立する必要がある。回復期リハビリテーションも後方病院が必要。
- 横浜は広いので、一つの病院でt-PAをどんどん受け入れるのは無理。この病院では、急性期1週間くらいの患者を受け入れて、1か月以内に別の病院で移すルートも考える必要がある。
- 専門病院では、臨床研究も重要。国立精神・神経医療研究センター並みには無理だが、栃木県立のがんセンターなどを参考にすることが必要。

IV 名古屋大学大学院神経内科学 教授 祖父江 元

1 脳血管医療センターが行った、脳卒中医療の充実及び神経疾患や脊椎脊髄疾患への医療機能拡大への取組についての評価

- 神経内科関係の疾患は、神経難病を含め患者数が増えてきている。脳卒中は現在横ばいだが、救急という意味では重要な領域にある。
- 神経内科として、まとまった病床があるのは全国的にもあまりない。公的なものとしては、都立神経病院くらいか。脳卒中と神経難病と脊椎疾患をまとめてやっているところはない。非常に売りになる。コンセプト的にも非常に良い展開になってきたと思う。社会的に認知されるだろう。

2 医療機能が拡充した脳血管医療センターの名称について

- 病院機能からは、神経という枠でくくれるので、「神経」は入れた方が良い。
- 東京でも静岡でもなく、横浜にあるのだから「横浜」は付けたほうが良い。
- 昔は「〇〇病院」だったけど、今は「センター」の方がよいでしょう。
- 「横浜神経センター」、「横浜神経疾患センター」、「横浜神経医療センター」。近い名称では、「静岡てんかん・神経医療センター」がある。

3 今後の脳血管医療センターの取組の方向性について

- てんかんと認知症に対する対応をどうするか検討する必要がある。最初から欲張らない方が良いが、足腰をしっかり置いて、ニーズが見えてくればやる。やっていった方が良いと思う。
- 回復期リハビリテーションについては、自病院だけでなく、連携病院、後方病院をつくって、病床数を減らしていくことも検討する必要がある。
- 認知症、神経難病も病院の中だけでは解決しない。長い期間フォローする必要がある。地域をオーガナイズする部門を病院の中に作った方が良い。
- 今後、地域連携をこの病院の中核にして、大きなパワーを出す。地域連携抜きには考えられない。地域連携を活性化してほしい。
- きちっとした研修プログラムができて、教育ができる状況となれば、全国に打って出る。特別なトレーニングができることを売りにできる。

V 横浜市立大学医学部長・整形外科教授 齋藤 知行

1 脳血管医療センターが行った、脳卒中医療の充実及び神経疾患や脊椎脊髄疾患への医療機能拡大への取組についての評価

- 患者数、収入が順調に増加してきている。
- 特に救急隊からの受け入れ件数も増加しており、脊椎脊髄疾患への機能拡大が脳卒中医療にも良い影響を与えている。
- 脊椎脊髄外科は、患者数、手術件数も順調に増えている。
- 今年度からは、市大の神経内科から神経内科医師3名の派遣があり、神経疾患への機能拡大も順調に進んでいる。

2 医療機能が拡充した脳血管医療センターの名称について

- 市民の人たちの頭の中のイメージと一致するような名称が良いと思う。
- 「脳」、「脊髄」ならば「神経」の方が良い。
- 「脊椎」、「神経」、「機能再建」、「機能回復」がキーワード。
- 例えば、「神経脊椎機能回復センター」とか。

3 今後の脳血管医療センターの取組の方向性について

- 脊椎脊髄については、高齢者の脊椎疾患のみでなく、地域の医療機関では対応できない、若い人の脊柱変形疾患や脊損も積極的に取り込む。
- リハビリについては、筑波大で行っているHAL（介護支援ロボットスーツ）とか、民間のリハビリで導入しだしている電気刺激とか、横浜の中のリーダーとして積極的に先端技術を取り入れていく。さらに、昔、七沢リハビリテーション病院で取り組んでいたように、装具だけでなく、もう少し外科の介入を増やしていくとかも検討して欲しい。
- 脳神経外科については、てんかん等についての機能外科に広げていく。
- それぞれの科で専門性を高めていくとともに連携した取り組みを行う。
- 医師の専門医制度が変わっていく。それぞれの分野で専門医養成施設の基準を満たしていく必要がある。
- 東京オリンピックに向けて、リハ工学科で車いすとか装具関係の開発を行って、パラリンピックに出るとか。脊損を治療するとそのいうこともできる。

VI 大阪医科大学整形外科 教授 根尾 昌志

1 脳血管医療センターが行った、脳卒中医療の充実及び神経疾患や脊椎脊髄疾患への医療機能拡大への取組についての評価

- 20億円の繰入金を入れて、10億円の赤字ということは、30億円の赤字である。年30億円の赤字ということは1日約1千万円の赤字ということになる。まず、経営の立て直しが先決である。
- 脊椎の収益は上がってきている。今後も脊椎手術を必要とする患者は増える事が予想され、利益も上げられるだろう。
- 難病・脊髄損傷はどうしても赤字になる。今の医療経済を考えれば、やる病院は少ない。関西では脊髄損傷の専門施設が無く、困っている。公的センターで多額の補助金を受けていて、病床に余裕があるのなら、センターで実施することで、市民に安心を得られるだろう。

2 医療機能が拡充した脳血管医療センターの名称について

- 脊椎の患者や医師を引き付けるために、脊椎脊髄は是非盛り込みたい。
- 脊椎脊髄を入れたとして、「脳」「神経」「脳血管」のどれを入れるかだろう。
- リハビリが充実しているので、「機能再建」か「機能回復」を入れ、ポジティブな名前にする。例えば、「脳脊椎脊髄機能回復センター」など。
- 「神経」を入れるなら、脊髄も神経だから、「脊椎」だけでよい。その場合は、「脊椎・神経機能回復センター」ではどうか。
- 脳神経外科の医師の意見はどうか。「脳血管」では狭いので、入れるなら「脳神経」、「神経」の方が良いのではないか。
- インターネット検索も意識してはどうか。例えば、名称に「脊椎」だけしか入ってなくても、「脊髄損傷」で検索できるだろう。
- 地名だけの名前だと特色が出ない。専門病院なら名称に特色を盛り込むべき。
- 過去の歴史を払拭し、「生まれ変わったというメッセージを出す」ことを考えるのであれば、あえて、「脳血管」を外した方が、一新したというイメージが出る。

3 今後の脳血管医療センターの取組の方向性について

- 脊椎で50床は多い方だが、医師を増やせば、さらに入院患者数を増やすことはできるのではないか。
- 京都の宇多野病院は神経難病を受け入れている。国が何か援助をしているのではないか。脊髄損傷や神経難病を行うのなら、補助がないと経営とは両立しないのではないか。
- 脊椎疾患は高齢者が多く、手術をするためには循環器は絶対に必要である。
- 大学との連携のもとでの脊椎専門病院であれば、新たな専門医制度の中で、大学とユニットを組んで脊椎疾患の研修・教育施設になれる。若い医師の教育にもプラスになり、大学にもメリットがあるのではないか。
- 研究は、採算とはなかなか両立しない。

1 脳血管医療センターが行った、脳卒中医療の充実及び神経疾患や脊椎脊髄疾患への医療機能拡大への取組についての評価

- 公立病院として空いている状況が一番問題。
- 全国的に見ても完全に同機能の病院はないが、この病院は急性期を扱う病院としては、少し交通の便が悪いという難点はある。領域を広げて、専門性を高め、患者を呼ぶしかない。
- 市立病院として政策的医療を行うという視点からは、脳卒中より神経難病脊椎脊髄疾患の方が受け入れる病院が少なく比重が重い。
- 一方で後期高齢者が増えていくから、心疾患と脳卒中は増えるため、脳卒中の重要性も高まっていく。

2 医療機能が拡充した脳血管医療センターの名称について

- 脳卒中に加え、神経難病と脊椎脊髄を中心的に行っていることをわかりやすく市民に伝える名称にする。
- 脳卒中、神経疾患、脊椎脊髄疾患の共通の性格は、QOL（生活の質）、ADL（日常生活動作）が絡んでくる。人の動き、身体の動きが絡んでくる。そのことを活かすことができる病院名称があると良い。
- 標榜している機能からいえば、「脳」、「血管」、「神経」、「整形外科」、「医療センター」を一つにする言葉
- 共通のキーワードは「神経」と「運動」。
- 繋ぎ合わせると、「運動機能向上改善医療センター」、「身体活動生活機能向上医療センター」、これを短い言葉で表せられたら良い名称になる。
- 「統合脳運動疾患医療センター」

3 今後の脳血管医療センターの取組の方向性について

- 後方病院、在宅医療との連携が必要になってくる。福祉や介護保険、保健所も絡んでくる。
- 市立病院間の機能分担、連携も必要。みなと赤十字病院でt-PAの治療後、1週間くらいで、この病院へ転院するというのがあっても良い。
- 臨床研究はどういう研究をするのが評価になる。3つの機能をまとめた社会科学的なことも研究テーマとなる。政策医療もこのなかに含まれる。

脳血管医療センター新名称についてのアンケート集計結果

種 類	概 要
ヨコハマ e アンケート	実施期間：平成26年5月1日（木）～5月15日（木） 回答数：815件（回収率：37.9%） 対 象：事前に登録されたメンバー 2,153人
院内設置 アンケート	実施期間：平成26年5月1日（木）～5月21日（水） 回答数：782件 対 象：脳血管医療センター利用者
職員 アンケート	実施期間：平成26年5月1日（木）～5月21日（水） 回答数：399件（回収率：54.1%） 対 象：脳血管医療センター職員 737人
ホームページ上の アンケート	実施期間：平成26年5月1日（木）～5月21日（水） 回答数：28件 対 象：広く市民
計	回答数：2,024件

脳血管医療センター新名称についてのアンケート集計結果一覧

アンケート種別	eアンケート	院内設置アンケート	職員アンケート	ホームページ上アンケート
実施期間	5月1日～5月15日	5月1日～5月21日	5月1日～5月21日	5月1日～5月21日
回答数	815件(回収率:37.9%)	782件	399件(回収率:54.1%)	28件
対象	事前に登録されたメンバー 2,153人	脳血管医療センター利用者	脳血管医療センター職員 737人	広く市民

横浜市の専門病院(特定の病気や部位を対象に専門的な診療を行う病院)として、どのような病院名称がいいと思いますか。(複数選択可)

項目	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
部位	706	86.6%	507	64.8%	225	56.4%	27	96.4%
地名	382	46.9%	230	29.4%	180	45.1%	4	14.3%
イメージ	75	9.2%	75	9.6%	80	20.1%	1	3.6%
その他	17	2.1%	10	1.3%	8	2.0%	1	3.6%

具体的にどの部位を名称に入れたら分かりやすいと思いますか。(複数選択可)

項目	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
脳	402	49.3%	226	28.9%	137	34.3%	8	28.6%
神経	251	30.8%	177	22.6%	94	23.6%	5	17.9%
脊髄	106	13.0%	153	19.6%	96	24.1%	2	7.1%
脊椎	67	8.2%	124	15.9%	115	28.8%	2	7.1%
脳血管	437	53.6%	317	40.5%	90	22.6%	23	82.1%
その他	24	2.9%	2	0.3%	7	1.8%	0	0.0%

具体的にどの地名を名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)

項目	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
横浜	171	21.0%	192	24.6%	100	25.1%	5	17.9%
南横浜	82	10.1%	37	4.7%	23	5.8%	0	0.0%
磯子	164	20.1%	85	10.9%	45	11.3%	1	3.6%
滝頭	67	8.2%	81	10.4%	58	14.5%	0	0.0%
久良岐	12	1.5%	8	1.0%	4	1.0%	0	0.0%
その他	11	1.3%	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%

具体的にどのイメージを名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)

項目	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
市民	21	2.6%	69	8.8%	34	8.5%	1	3.6%
さくら	12	1.5%	38	4.9%	27	6.8%	1	3.6%
はまかぜ	35	4.3%	31	4.0%	22	5.5%	0	0.0%
うみかぜ	17	2.1%	11	1.4%	7	1.8%	0	0.0%
さいせい	9	1.1%	33	4.2%	11	2.8%	0	0.0%
その他	8	1.0%	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%

名称の最後を「病院」(例:市民病院)や「医療センター」(例:脳血管医療センター)などにするを考えています。ア～エの候補のうち、どれがふさわしいと思いますか。(単一選択)

項目	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
病院	143	17.5%	66	8.4%	96	24.1%	2	7.1%
医療センター	575	70.6%	501	64.1%	216	54.1%	24	85.7%
センター	31	3.8%	51	6.5%	38	9.5%	1	3.6%
センター病院	50	6.1%	80	10.2%	31	7.8%	0	0.0%
無回答	16	2.0%	89	11.4%	24	6.0%	1	3.6%
計	815		787	※重複5件	405	※重複6件	28	

**脳血管医療センター新名称についてのアンケート
eアンケート集計結果**

実施期間:平成26年5月1日～5月15日 回答数:815件(回収率:37.9%) 対象:事前に登録されたメンバー 2,153人		
Q1)あなたは「横浜市立脳血管医療センター」をご存知でしたか?(単一選択)		
項目	件数	割合
名前や概要について知っている	128	15.7%
名前は聞いたことがある	198	24.3%
知らなかった	488	59.9%
無回答	1	0.1%
Q2)Q1で「ア」「イ」と答えた方に伺います。脳血管医療センターについてどのようなきっかけで知りましたか。(単一選択)		
項目	件数	※割合
自分・家族・知人が入院・通院している(していた)	63	19.3%
イベントや講演会	40	12.3%
近所にある	20	6.1%
インターネット	50	15.3%
その他	152	46.6%
無回答	1	0.3%
Q3)横浜市立の専門病院(特定の病気や部位を対象に専門的な診療を行う病院)として、どのような病院名称がいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
部位	706	86.6%
地名	382	46.9%
イメージ	75	9.2%
その他	17	2.1%
Q4)具体的にどの部位を名称に入れたら分かりやすいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
脳	402	49.3%
神経	251	30.8%
脊髄	106	13.0%
脊椎	67	8.2%
脳血管	437	53.6%
その他	24	2.9%

※Q2については、Q1で「ア」「イ」を選択した326件を分母として割合を算出しています。

Q5) 具体的にどの地名を名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
横浜	171	21.0%
南横浜	82	10.1%
磯子	164	20.1%
滝頭	67	8.2%
久良岐	12	1.5%
その他	11	1.3%
Q6) 具体的にどのイメージを名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
市民	21	2.6%
さくら	12	1.5%
はまかぜ	35	4.3%
うみかぜ	17	2.1%
さいせい	9	1.1%
その他	8	1.0%
Q8) 名称の最後を「病院」(例:市民病院)や「医療センター」(例:脳血管医療センター)などにするを考えています。ア～エの候補のうち、どれがふさわしいと思いますか。(単一選択)		
項目	件数	割合
病院	143	17.5%
医療センター	575	70.6%
センター	31	3.8%
センター病院	50	6.1%
無回答	16	2.0%
計	815	

※自由記載は別紙参照

eアンケート集計結果（問7）

具体的にどのような単語を名称に入れたらいいと思いますか。

1. 具体単語

「ハマヘルス」
しおかぜ
ブレイン
リハビリテーション
横浜市立
横浜市立脳神経外科病院
横浜滝頭脳医療センター
海 風 ひなた など
中央
脳血管センター滝頭
脳血管医療センター
例：磯子脳血管

2. その他意見

そのままよい
何を治療目的をするのかがわかる様に
公立であることがわかる単語
市民、血管系
従来のままの名称で何の問題も無い。
不都合なことがあったのですか？
名称を替える必要はないと思うのですが。
命名権契約企業の会社名・ブランド名

eアンケート集計結果（問9）

具体的に名称案・ご意見があればご記入ください。

1. 名称に対する意見

(所在地)をいれて”脳血管医療センター
「医療センター」という名称だと直感的にわかりにくい。
・名称などは、どうでもよい。要は中身の問題。・センターとしての役割りをしているのか疑問。・数年前に来院者に行ったアンケート結果は生かされていないのでは。
あまり英語は使わないほうが高齢者には優しいと思います。語尾が専門病院とかのほうが一瞬でわかりやすいかと。
あまり長い名前は不便なので短いほうが好みです
アンケート送付に際し 当該 チラシを添付したら。
今のところ特になし
イメージしやすいものが、周知しやすいと思います。
ここをセンターにするのか。もう少し、こちらの近くにもあったら良いかと。
今回のアンケートは、わざわざ税金を使ってやることですか？担当者で決めれば良いことだと思う。税金（郵便代、プリント代）を使ってやることではないと思う。
サブネームNHIとか
なるべく病院名を変えずに市名などに関係するものを加えた方が良いかと思っています。
ハイカラ気取りで横文字を使うのではなく、誰でも理解できる分かりやすい名称にしてほしい。
はまかぜ脳医療センター のようにある程度、対象部位、場所が特定できる様な名称が良いと思います。
はまかぜ脳血管市民病院。どこの病院に行ってるの？と聞かれて、略して、はまかぜ市民病院と言う方が言いやすいから。広く脳血管の病院と知られたいけれど、脳血管と言いたくない時もあるか横浜市コールセンターや医療情報センターなどですぐに市民が利用出来る情報案内も大切だと思う愛称は親しめるのかもしれませんが、やはり求める内容が直ぐに分かる表記がいいです。
磯子脳〇〇医療センターで〇〇中には柔らかな言葉が良いと思います。暗いイメージを持つてるということを聞いたことがあるので。
一目でイメージがわかりやすい方が良いと思います
横浜だと広いので地名を入れてほしい
横浜市の施設であることがわかる名称が良いかと思っています。
何の専門病院かが分かりやすい名称が良いと思います。
覚えやすくやさしいイメージが良いと思います。
既存名称で不便な点が見えないとアンケートに回答しづらい。『横浜脳神経〜』専門性をアピールしたいのなら医療センター、広範囲に人を集めたいなら病院が続くと良いのでは。
具体的に病気や症状を連想させない 希望が感じられる印象があるといいと思います。
検査を気軽に受けられる医療センターであってほしい
見て聞いて直ぐにイメージできる名称がよい。
娯楽ではなくこういったきちんとした事には抽象的な名称は避けていただきたいです。
公民私に関わらず、地域の中核をなす施設の名称の統一。〇△□センター病院とか。
高度医療センターと「高度」とつけてはダメなんでしょうか？また、脳神経専門医療センターと「専門」とつけるのはどうですか？
高度医療機関であり一次医療でないことを周知する
高度専門性をアピールするため専門病院とするとわかりやすい。
症状に該当することが解ることがよいと思います。
上記「イ」が専門的でいい。「緊急に対処すべき」時に治して頂けそう。
診療内容を連想しやすい名称をつけて、さらに診療内容・受診方法を今まで以上に分かりやすく説明していただきたいです
専門にしている病症が入っていた方が安心感がある。
専門の病院は必要に迫られて探してまで行くところなので簡潔に得意分野が分かる名称が良いと思う、地名はともかくイメージ名称は地域の病院だけにしたい。
専門病院なのでどのような病気を治療するかがわかり易い名前にした方が良く、南横浜や磯子などの名称を入れるとおおまかな場所も想像出来て良いと思います。
専門病院は部位を含めた名称でセンターとした方が分かりやすい。
専門部位+地名でどうか（将来増えたときを考慮）
総合病院でない場合はセンターのほうがわかりやすいと思う
対象とする医療内容が明確に分かるようにすべきです。
滝頭は昔から万治病院で（伝染病）で有名な病院でした滝頭を是非残してほしいの出生地です

誰もが名前を見て病院の診療内容が分れば名称はスタンダードで良いのでは 地域や専門的な部位が一目でわかる名称がどの医療関係にも必要だと思います。
中枢的な役割を果たす場合は「医療センター」、そうでない場合は「病院」という表記が望ましい と思います。また、特定の部位を入れることで市民にわかりやすい名称となると思います。
特にありませんが目的がわかりやすい名称の方が良いと思います
南横浜を中心とした、どなたでも受診できる専門病院である名称がよりよいと考えます
入院設備のないのはクリニックと聞いたことがあるが、病院とセンターの違いが判らない。ただの イメージやゴロで分けていいものなの？
脳血管医療センターがどういうものなのか分からない。まず、業務内容を広くしてもらうことが 先決だと思います。内容によっては、親しみやすい略称を付けてもいいと思います。
脳血管医療センターのある滝頭一丁目住んでいますが、市大医学部病院になるという話が広がって います。そうであるのなら、地名をいれた方がよいと思います。
脳神経に関連する医療施設であるならば、それが一目で分かって所在地が何処かも分かるような名 称が一番良いと感じる
病院と医療センターの違いがわからないので、どちらかに統一していただけると助かる
病院と医療センターを使い分ける意味がないなら病院に統一してほしい。
病院にかかる際、どこにかかればいいのか？わからないことも多いので、部位が名称に入っていた 方がよいと思います。
病院は固いイメージがあり、主に診察をする場所、センターは治療、リハビリのようなイメージが あります。病院よりはセンターの方が気軽に入れそうな気がします。
部位の名称は場所的にイメージが悪い。地名が無難と思います。
部位名で表現することがわかり易いと思います。
本病院を、急性期病院とするのか、回復期病院とするのか、それとも、それらとは一線を画すの か。その位置づけを、はっきりとして欲しい。
名称はわかりやすさを第一に、必要な人に必要な情報が伝わる必要がある。必要は人に情報が届け ば、場所等はそれから調べられる。名称は地域のためではなく、それを必要としている人のために 名前は誰がみてもその目的が分かるものでないと印象が薄くなり、必要な時に思い浮かばない。地 名は最後に入れたらいい。
名前も大事ですが、設備などのことにもしっかり力を入れてほしい。
老若男女が見ても聞いても解りやすく覚えられ思い出せる名称。
そのまま問題ないと思います。
どういう理由で名称を替えたいのかわかりません。
名称を変更すると色々物の名称変更コストがかかりすぎる。バス停名、印刷物、建物名看板等変更 現在の名称が良い
今のままで十分。内容、使命ともよく分かる。地名が入るとさらにわかりやすいが・・・。
今までの名称で分かり易く、また説明もし易いです。
対象とする病がわかりやすいので今のままがよいと思います
特に名称を変更しなくていいと思う
変えなくていいと思います
変更するとなると、諸々の諸経費がかかります。変更する必要があるのでしょうか？
名称変更にもコストがかかるなら必要ない。現状の名称で不都合が出ている等の理由があるなら、ま ずはその理由を明確にすべき。余計なものにお金を使う必要はない。
名称変更の必要性が感じられない。
「横浜うみかぜ病院」横浜の風はどんな病気も吹き飛ばしてくれる、そんな病院を作ってください
「脳神経医療センター」。脊髄は漢字が難しすぎる。病院だと総合病院だと思う。
横浜市脳血管関連センター病院（味も素っ気もないかもしれませんが、病院名が専門科目をスト レートに表現している方が市民としては判り易くて良い。特に、愛称などをつけるとかえって訳が わからなくなる恐れがありま
「横浜市立脳血管医療センター」 → 誤解せぬよう単純且つ分かり易い名称がよい
「脳血管医療センター」がわかりやすくいいと思います。
市立脳血管医療センター／北部を除き？現病院名もある程度定着している上、あくまでも脳血管が 第一の柱であり脊椎脊髄は第二の柱であると思える。病院名で全ての診療科を表現する事にも無理 私の回答だと現在のまま「脳血管医療センター」となります。「さくら」などのイメージでは、逆 に何をやる機関なのか分からず、避けるべきかと思えます。
脳血管医療センターでわかりやすくいいと思います。
脳血管医療センター”わかりやすくして良いと思います。なぜ名称に拘るのか逆に教えて頂きたいと 思います。”

2. 具体名称

「ハマヘルス」医療センター
磯子あたまリバイバル医療センター
磯子滝頭脳血管医療センター。略称『脳血管センター』
たきがしら脳血管医療センター
はまかぜ医療センター
はまかぜ医療センター、みなと医療センター
はまかぜ脳再生センター病院
はまかぜ脳神経医療センター
ホスピタル
みなみ横浜脳血管医療センター
メディカルセンター
よこはま 脳専門 医療センター
横浜市立脳血管センター
よこはま脳血管医療センター
よこはま脳神経医療センター磯子
よこはま脳診療センター
レッド（センター）ライン医療センター
磯子うみかぜ脳血管医療センター
磯子はまかぜ医療センター
磯子脳血管医療センター（2件）
磯子脳神経医療センター
磯子脳脊髄病院
横浜ベイサイド脳血管・神経再生医療中央センター
横浜医療センター
横浜磯子 脳医療センター
横浜磯子脳血管市民病院
横浜久良岐脳医療センター
横浜市脳治療センター
横浜市脳神経センター病院
横浜市脳神経医療センター
横浜市民脳血管医療センター
横浜市立 脳・脊椎・脊髄・神経医療センター（略称 脳脊神 医療センター）
横浜市立 脳血管神経専門病院（芸がないが単純明確）
横浜市立（再生医療センター、循環器病センター）（横浜市民病院、磯子救急病院）
横浜市立たきがしら脳血管医療センター
横浜市立磯子脳血管・神経科病院
横浜市立磯子脳血管医療センター（3件）
横浜市立磯子病院
横浜市立血管系市民医療センター
横浜市立先端ブレインセンター
横浜市立脳関連医療センター
横浜市立脳血管・神経医療センター
横浜市立脳血管医療センター
横浜市立脳血管障害治療センター
横浜市立脳血管病院
横浜市立脳神経外科病院
横浜市立脳神経疾患医療センター病院
横浜市立脳脊髄病院
横浜脊椎脳血管センター
横浜滝頭脳血管医療センター
横浜南脳血管医療センター（2件）
横浜脳・脊髄医療センター
横浜脳せき髄医療センター
横浜脳医療センター
横浜脳血管・脊髄総合医療センター
横浜脳血管センター病院
横浜脳血管医療センター（4件）

横浜脳血管医療センター（略称 YNC）
横浜脳血管医療センター病院
横浜脳血管医療市民病院
横浜脳血管専門病院
横浜脳血管総合医療センター
横浜脳治療センター
横浜脳疾患医療センター
横浜脳神経医療センター（3件）
横浜脳専門病院
久良岐・脳脊椎医療センター
血管未来センター
高次機能医療センター
高度人体信号系先端医療センター
滝頭脳血管医療センター（2件）
南磯子・医療センター
南横浜はまかぜ医療センター
南横浜医療センター
南横浜市立脳神経医療センター
南横浜脳血管医療センター（2件）
南横浜脳血管高度先進医療センター
南横浜脳神経医療センター
南横浜脳専門医療センター
脳、神経、脊髄専門病院
脳・神経磯子医療センター
脳・中枢神経医療センター
脳血管・脊椎神経医療センター
脳血管メディカルセンター
脳血管医療病院
脳血管横浜さくら医療センター
脳血管市民医療センター
脳血管市民病院（2件）
脳血管神経医療センター病院
脳血管脊髄医療センター
脳血管脊椎医療センター
脳血管専門医療センター（2件）
脳血管総合医療センター
脳疾患医療センター
脳疾患総合医療センター
脳障害 横浜医療センター
脳神経脊髄医療センター（2件）
脳神経総合医療センター
脳脊柱専門医療センター
脳血管医療センター（5件）

**脳血管医療センター新名称についてのアンケート
院内設置アンケート集計結果**

実施期間:平成26年5月1日～5月21日 回答数:782件 対象:脳血管医療センター利用者									
質問1)ご自身についてお答えください。									
①お住まい	項目	件数	割合	項目	件数	割合	項目	件数	割合
	市内	56	7.2%	港南	74	9.5%	中	64	8.2%
	青葉	10	1.3%	港北	9	1.2%	西	21	2.7%
	旭	18	2.3%	栄	10	1.3%	保土ヶ谷	27	3.5%
	泉	19	2.4%	瀬谷	14	1.8%	緑	1	0.1%
	磯子	157	20.1%	都筑	3	0.4%	南	132	16.9%
	神奈川	13	1.7%	鶴見	9	1.2%	その他	55	7.0%
	金沢	48	6.1%	戸塚	22	2.8%	無回答	20	2.6%
②性別	項目	件数	割合						
	男性	402	51.4%						
	女性	353	45.1%						
	無回答	27	3.5%						
③年代	項目	件数	割合	項目	件数	割合	項目	件数	割合
	70歳以上	377	48.2%	50代	95	12.1%	39歳未満	33	4.2%
	60代	187	23.9%	40代	64	8.2%	無回答	26	3.3%
④次は、 当てはまる項目に 当てはまりますか?	項目	件数	割合	項目	件数	割合	項目	件数	割合
	脳卒中患者	222	28.4%	脊椎脊髄 疾患患者	155	19.8%	外部医療・ 介護関係者	20	2.6%
	脳卒中 患者家族	42	5.4%	脊椎脊髄疾患 患者家族	17	2.2%	その他	13	1.7%
	神経疾患患者	110	14.1%	面会者	24	3.1%	無回答	50	6.4%
	神経疾患 患者家族	10	1.3%	老健利用者 ・家族・職員	6	0.8%			
質問2)横浜市立の専門病院(特定の病気や部位を対象に専門的な診療を行う病院)として、どのような病院名称がいいと思いますか。(複数選択可)									
項目							件数	割合	
部位							507	64.8%	
地名							230	29.4%	
イメージ							75	9.6%	
その他							10	1.3%	

質問3)具体的にどの部位を名称に入れたら分かりやすいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
脳	226	28.9%
神経	177	22.6%
脊髄	153	19.6%
脊椎	124	15.9%
脳血管	317	40.5%
その他	2	0.3%
質問4)具体的にどの地名を名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
横浜	192	24.6%
南横浜	37	4.7%
磯子	85	10.9%
滝頭	81	10.4%
久良岐	8	1.0%
その他	0	0.0%
質問5)具体的にどのイメージを名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
市民	69	8.8%
さくら	38	4.9%
はまかぜ	31	4.0%
うみかぜ	11	1.4%
さいせい	33	4.2%
その他	2	0.3%
質問7)名称の最後を「病院」(例:市民病院)や「医療センター」(例:脳血管医療センター)などにするを考えています。ア～エの候補のうち、どれがふさわしいと思いますか。(単一選択)		
項目	件数	割合
病院	66	8.4%
医療センター	501	64.1%
センター	51	6.5%
センター病院	80	10.2%
無回答	89	11.4%
計	787	※重複5件

※自由記載は別紙参照

院内設置アンケート集計結果（問6）

具体的にどのような単語を名称に入れたらいいと思いますか。

1. 具体単語

あおぞら
海風
海運
海生
再生
さいせい
さくら
ささえ
神経
タキガシラ
滝頭中央
滝頭脳血管医療センター
中枢神経医療センター
東西南北
脳
脳血管
脳血管医療センター
脳脊髄
脳卒中研究センター
ハマ
南風
リハビリ専門

2. その他意見

今までで良いと思う。（2件）
今までと同じ名称で良い。必ず脳血管を入れる
イメージ名称は無くても良いと考えます。
イメージ名称は不要と思います。
感覚的な名前は不要。明確に
患者さんを支え回復に向けるイメージ
腰とか下脚とか高齢になると誰もが患う部処名が連想されたらと思うのですが、言葉が浮かびません。
総合病院を目指すならあまり個別の単語は入れないほうが良い。
そのままよい
誰にでもわかり、やすらぎを思える。
何々かの専門
何を売りにするのか。今でも脳血管ではなく脳卒中医療センターだと思う。その売りを名称に入れると良いと思うが、病院名称をアンケートで参考とする当り、力強さは感じられない。本丸からずれている。
脳血管を必ず入れてください。
横浜の地名と専門部位の複合

院内設置アンケート集計結果（問8）

具体的に名称案・ご意見があればご記入ください。

1. 名称に対する意見

<p>明るいイメージ名称となるよう、磯子、海、緑などのワード頭に地名を入れるくらいでなれた今の名でよいと思います。一般、市民病院のような意味不明でない方がよい。</p>
<p>イメージが明るく進んで医療が受けたいくなるようなのがよい。名称以外にどんなコンセプトで運営するか…。市民の健康をどのようにしたいのか。説明を十分してください。現在はちょっと暗い感じですが明るくてしかも重厚なのがよい。</p>
<p>いろいろな診療科目があったらよいと思います。よろしくお願ひいたします</p>
<p>家族等が病院名を聞いた時に所在のイメージがうかぶ名称</p>
<p>堅苦しい名称なのでもう少しなじめる病院名にしてください。</p>
<p>患者側としたらどの症状を診てくれるくれる病院なのかを病院名である程度わかるのはとてもうれしいし助かります。友人が先日、脊椎小脳変性症と診断されました。こちらの病院でも診ていただける症例でしょうか。</p>
<p>くわしい案内があったらいいと思います</p>
<p>研究所をつける</p>
<p>現在の名称のままでも良いと思いますが、神経等の名称も入れられればさらに良いと思います。</p>
<p>現在の名称は片寄っていると思います。もう少し一般的な明るいイメージの病院を希望します。スペシャリストを増やし、個々の病院ならと各地から市民が思えて集まる病院になってほしい。</p>
<p>県の循環器呼吸器センター→略称、循呼のように略称の表示も</p>
<p>昨年6月末に名古屋より引っ越して来ますので地理的にも慣れてないので、心臓で横浜市大に通って後どのような病院があるかわからないです</p>
<p>残念ながら具体的に挙げられないのが正直なところです。よい名称が決まることを願っています。</p>
<p>疾患が連想される名称が必ずしも良いとは思いません。患者さんそれぞれの思いがあると思います。また、地名を入れると概ね建物の位置がわかると思いますが、利用者は広く他の地域からも受け入れることと思います。この地域のイメージが海ならば海にちなんだ名称や桜なども美しい名称だと思いますが…。</p>
<p>市民に分かりやすければどれも可</p>
<p>すみれ、ゆり</p>
<p>脊柱管狭窄症の手術でお世話になりましたが、人に病院名を伝えると腰なのに脳血管の病院と違和感があるようです。でも、専門の部位をすべて入れると名称が長くなってしまいますね。滝頭と医療センターは加えると良いと思います。</p>
<p>全国的にも専門性の高い医療機関ですので、中枢神経系の専門医療機関であることを冠にしてほしいと思います。イメージにある名称は不相当だと考えます</p>
<p>センターという曖昧なものでなく、病院と付けてもらおうと、カーナビなどで他のセンターなどが出てこないのが検索しやすいです。なにより病院だとわかる</p>
<p>センター名新名称に関係ないことですが根岸駅～バスの増便はできないのでしょうか。通院に不便といわれる方が多いですが</p>
<p>専門病院であると解かる名称が良いと思うが、長すぎるのも覚えづらく思う。病院の方針をイメージできる名称が良いと思う。</p>
<p>地名と診療名を入れると何の病院がわかりやすくて良いと思います。</p>
<p>地名にするのはやめた方がよいと思います。近くには同じような地名のHPがあります。もう開院より10年以上経っていますので脳血管の名は定着しています。センター病院が覚えやすく聞く方も柔らかいです。医療センターは冷たいイメージです。医療機器を想像します。</p>
<p>特にありませんが、バスの運行回数、センターへのバスの利便性（シャトルバス）が欲しいです。</p>
<p>馴れ親しんだ名称にしたい。</p>
<p>西病棟のイメージが悪い、5にクラブ？4に暗い！</p>
<p>入院した後も通院できるようにしてほしいのですが、他の病院へ行くよう勧められたことがあります。本人としてはとても不安になりました。できれば良くなるまで当院で診ていただきたいと心より思っております。</p>
<p>脳血管が耳だけで聞くと脳欠陥ともとれるので抵抗がある。リハビリが充実しているので回復センターなど</p>
<p>脳に特化したこのセンターは必要です。名称を変更するのであれば市民に広く広報してください。</p>
<p>脳以外の診察が行われていることはあまり知られていません。</p>
<p>ひとめ見ただけですぐわかるような名称</p>
<p>病院のイメージを良くする名称にして頂きたいです。</p>

病院名のアンケートより、もっと患者に対して、診察診療を真剣に取り組んでほしい。先生によつては（特に女性の医師）、薬も出さずに他の医療へ行くように勧める。患者の痛みや体調の悪さに対して冷たい。病院名より医師の患者に対する対応を考えてほしい。
丸山町に住んでいる77歳の老婆ですが、遠くには大変ですので色々な科があつたらと思いますので、よろしく願い致します。只今は、脊椎髄科にお世話になっております。
皆さん良く頑張っています
昔から脳血管専門病院として横浜市内の南部地域に定着しているが、今後、総合病院化を進めるのであれば地名とイメージを合わせた名称が良い。横浜はまかせ病院等
名称にはこだわりません。要は患者の訴えを前向きにとらえ補足的治療に徹底して貰うことが願いです。
名称は別としてこれを機に専門病院として市民にさらに信頼される病院となることを大いに期待分かります。易く簡単な名称を希望
脳卒中、神経疾患、脊椎髄疾患との専門病院として運営するにあたり脳血管という単語のみを名称として入れるのではなく、この専門だというイメージを与えるような名称が良いと思います。なので、名称の後に医療センターと付けるのが良いと思います。
脳血管医療センターを变えるという事がどうして必要なのか？一部地域名や安っぽいさくら、はまかせ等々かえってわかりにくいと思います。
磯子脳血管医療センター。現在の名称だと、どの場所（地名）にあるのかわからない。磯子が付くと、磯子地区にあるのがわかる。
最近、病院の名前がどんどん変わって訳が分からなくなりそうです。狭い地域名やひらがなは×。今までの名前イメージからあまり変えないで増えた科をちょっと付け加える程度にしてほしいです。脳血管脊椎医療センター
滝頭脳血管医療市民センター。長すぎるな
脳血管医療病院。病院＝重い感じですが、センターは逆です
脳脊髄神経横浜フェニックスセンター病院。表示は2段。上段で専門性をアピール。下段で先進性（横浜）、回復・復活への力強いイメージ（フェニックス）、中核専門性（センター病院）を表現し、市民に親しみやすく信頼性のある名称とする。
今の名まえで
いまのなまえでいい
今のままが一番良いです。
今のままでいいです
今のままで十分わかりやすい。かえる必要はない。
今のままではダメですか
いまのままで良い
今のままで良い
今のままでよい。なれしたしんでいるし、かえなくてよいと思う。今まで通り専門は脳血管障害中心でいてほしいし
今のままの名称で良いと思います。
いままでが一番よいと考えます
今までと同じ脳血管医療センターにすべき
いままで通りで良いと思います。
今迄通りの名称が一番良いと思います
いままで通りの名称でいいと思います。
今まで通り脳血管医療センターとしてください。
今までの通りの名称で良いと思います。
今迄の名称で良いと思います。
変える必要ナシ。脳血管医療センター
変える必要はありません。脳血管医療センター
現在と同名称でいいと思う。
現在の名前が良い。安心できる名前だから
現在のままがすごく良いので好きです。変えないでください。
現在のままで十分、変更の必要はないと思います。
現在の名称で慣れているので変えてほしくないです。
現在の名称で変更することなし
現在の名称で変更の必要ない。
現在の名称で良いと思う。
現在の名称のままで良い
現在の名称変更必要なし。脳血管医療センター
現状のまま
現状のままでよい
現状の名称で良いと思います。10年以上馴れ親しんだ名称を変える事は今後なれるまでにかなりの時間がかかり長く通院している者にとっても混乱をまねくと思います。
このままの病院名がいいです。

このままの名称でおねがいします
従来通りが良い（わかりやすいです）
すでに名称としては知れ渡っているので今のままでよいのではないか？名称を変えると新病院だと思われないか？
そのままが良いと思う。知った名前の方がわかりやすいので
長年知れた名称であり内容的に大幅な変更があるならともかく名称を変えることに何故という疑問が湧きます。
長年通院しているので名称の大きな変更は望まない。
何故変えるのか？何故このセンターを作ったのか。脳血管医療センター
名前がしょっちゅう変わるとかえって地域住民としてはわかりづらいので、大きく変えないほうが良い。
脳血管医療センター
脳卒中専門病院として全国的にも名が知られているので変更する必要がないです。
変更の必要はありません。脳血管医療センター
名称変えないで下さい。脳血管医療センター
名称変えないで良い
名称の変更は必要ないと思います。
名称はあまり変えなくても良いのでは？大きく変わるととまどったりする場合がありますので
名称は変えるべきではありません。脳血管医療センター
名称変更しないで下さい。
名称変更反対です。
名称変更は必要ありません。脳血管医療センター
名称変更反対。脳血管医療センター
名称変更反対です。脳血管医療センター
名称を変える必要はないと思います。
脳血管医療センター。名称変更必要ないと思います。
脳血管医療センター。名称変更必要なし
脳血管医療センター。名称変える必要ないと思います。（2件）
脳血管医療センター。名称変更必要なし
脳血管医療センター。名称変える必要なし
脳血管医療センター。名称変更する必要なし
脳血管医療センター。名称変更必要ありません
脳血管医療センター。名称変更必要ないと思います。（2件）
脳血管医療センター。名称変更必要なし（2件）
脳血管医療センターでいいと思います。
脳血管医療センターが良いです。
脳血管医療センターのままでいいです
脳血管医療センターのままでお願い致します。

2. 具体名称

磯子医療病院
磯子脳神経センター病院
いそご脳脊椎医療センター
さくら脳センター院
神経脊椎研究センター（2件）
滝頭医療センター
滝頭脳血管センターが良いと思います。
滝頭脳脊髄センター
脳血管・脊椎脊髄医療センター
脳血管医療さいせいセンター
脳血管医療センター病院（6件）
脳血管神経医療センター
脳血管神経センター病院
脳血管脊髄医療センター。具体的でそのまま分かり易い。
脳血管脊髄脊椎医療センター
脳血管脊椎脊髄医療センター。少し長すぎますか。
脳血管脊椎医療センター
脳血管脊椎髄医療センター。これが一番
脳血管脊椎脊髄医療センター（2件）
脳血管専門磯子医療センター
脳血管病院
脳神経医療センター（3件）
脳神経脊髄医療センター病院
脳神経脊髄病院
脳神経センター
脳神経センター病院
脳センター病院
脳卒中研究センター
脳卒中神経脊椎脊髄医療センター
ハートフル横浜脳神経医療センター
ミナト医療センター
港医療センター
南横浜医療センター（2件）
南横浜脳血管総合医療センター
南横浜脳神経医療センター
南横浜はまかぜ病院
横浜さくら神経医療センター
横浜さくら脳血管医療センター
横浜市民脳・神経医療センター
横浜センター病院
横浜脳血管椎脊髄外科医療センター。最大限短く考えました。
横浜脳血管専門病院
横浜脳神経医療センター
横浜脳神経整形病院
横浜脳神経センター病院
横浜脳神経病院
横浜はまかぜ脳神経脊椎医療センター
脳血管医療センター（16件）

**脳血管医療センター新名称についてのアンケート
職員アンケート集計結果**

実施期間:平成26年5月1日～5月21日 回答数:399件(回収率:54.1%) 対象:脳血管医療センター職員737人									
質問1)ご自身についてお答えください。									
① 性別	項目	件数	割合						
	男性	110	27.6%						
	女性	287	71.9%						
	無回答	2	0.5%						
② 雇用形態	項目	件数	割合	項目	件数	割合	項目	件数	割合
	正職員	217	54.4%	アルバイト	60	15.0%	無回答	7	1.8%
	嘱託	27	6.8%	委託	88	22.1%			
③ 所属	項目	件数	割合	項目	件数	割合	項目	件数	割合
	診療	19	4.8%	薬剤	14	3.5%	管理	67	16.8%
	リハ	59	14.8%	栄養	35	8.8%	無回答	60	15.0%
	画像	10	2.5%	看護	119	29.8%			
	検査	12	3.0%	地域	4	1.0%			
質問2)横浜市立の専門病院(特定の病気や部位を対象に専門的な診療を行う病院)として、どのような病院名称がいいと思いますか。(複数選択可)									
項目							件数	割合	
部位							225	56.4%	
地名							180	45.1%	
イメージ							80	20.1%	
その他							8	2.0%	
質問3)具体的にどの部位を名称に入れたら分かりやすいと思いますか。(複数選択可)									
項目							件数	割合	
脳							137	34.3%	
神経							94	23.6%	
脊髄							96	24.1%	
脊椎							115	28.8%	
脳血管							90	22.6%	
その他							7	1.8%	

質問4)具体的にどの地名を名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
横浜	100	25.1%
南横浜	23	5.8%
磯子	45	11.3%
滝頭	58	14.5%
久良岐	4	1.0%
その他	2	0.5%

質問5)具体的にどのイメージを名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
市民	34	8.5%
さくら	27	6.8%
はまかぜ	22	5.5%
うみかぜ	7	1.8%
さいせい	11	2.8%
その他	0	0.0%

質問7)名称の最後を「病院」(例:市民病院)や「医療センター」(例:脳血管医療センター)などにすることを考えています。ア～エの候補のうち、どれがふさわしいと思いますか。(単一選択)		
項目	件数	割合
病院	96	24.1%
医療センター	216	54.1%
センター	38	9.5%
センター病院	31	7.8%
無回答	24	6.0%
計	405	※重複6件

※自由記載は別紙参照

職員アンケート集計結果（問6）

具体的にどのような単語を名称に入れたらいいと思いますか。

1. 具体単語

愛
友愛（病院）
横浜市立第2病院
リハビリテーション
リハビリテーションセンター
リハビリテーション病院

2. その他意見

今までの名称で脊髄脊椎を追加した方が現通院者にもわかりやすいと思われま
変える必要はない
現状名称の短縮した名称にしてみてもどうか「横浜市立医療センター」

職員アンケート集計結果（問8）

具体的に名称案・ご意見があればご記入ください。

1. 名称に対する意見

<p>” 専門とする部位を名称に入れる” を選択しましたが、もし専門部位変更の予定があるのなら、” 地名を名称に入れる” がいいと思います。分かりやすさ重視がいいと思います。</p>
<p>「（さくらさく）生活再生医療センター」 病気になっても生活を再成していくイメージ</p>
<p>「さくら」もやさしい感じがしますが春の桜のイメージが強いので、区の花コスモス（秋桜）もイメージできる「桜」の字が良いと思います。</p>
<p>「センター」と付く医療機関が多いので、区別しやすい付け方が良い。救急等で患者様があわてても言いやすい名前。今の名前は電話で何度も聞き返されてしまう。地区の名前があれば関係者の方が遠方から来てもさがしやすい。</p>
<p>アンケートなのに質問1のように質問すると、個人が特定できてしまうのでは？</p>
<p>一見して何の病院かが分かるのが望ましいのですが全部の部位を入れると長くなりすぎ言いにくくなるため、略称で入れる。</p>
<p>現在、利用されている患者様が受け入れやすい名称が良いと思います。大きく名称を変えてしまうとわかりにくくなってしまいかも</p>
<p>個人的には名称が長いのは好ましくないと思うので地名かイメージのどちらかが入れればよいと考えます。</p>
<p>今後の高齢化を考えると増加が考えられる脳血管疾患に対応する機能は残していくべき。しかし、その後のことも考えた場合、その時々状況に柔軟に対応できる病院内のセンター化が良いのではないかと思います。</p>
<p>今後も診療科等の変更が考えられるため、部位の名称は入らないほうが良い。</p>
<p>市内全域で公募告知して病院PRの一貫にしては？</p>
<p>市民が病院の機能をイメージしやすい名称がよろしいかと思います。</p>
<p>市民病院分院とか第2病院とか。そうすると呼びやすいし、もうけ主義ではない信頼される感じもあるし、どうでしょう。あまり脳とか出すと恐れ感じがするでしょうし…。</p>
<p>シンプルな名称のほうが良いと思う</p>
<p>診療科の体制が今後変わったとしても名称を変更せずにすむような当たり障りのない名前がよい センターは何をやっているところかわからないのではっきりと病院とした方がよいと思います。</p>
<p>専門性をアピールできるような名称が良いと思います。</p>
<p>専門とする部位を名称に入れた方が患者、市民に分かりやすくアピール効果も大きいですが、また今後別の診療科ができた場合、再度名称変更の議論が出ることになる。今回の名称変更では、問2イ、ウ（地名、イメージ）の名称を入れ、名称決定後に広く大々的に市民へアピールすることが重要であると考えます。</p>
<p>専門の治療をする病院があることが簡単にわかる名称</p>
<p>総合病院ではないので、具体的に特定の部位や疾患名を入れた方がよいと思う（その方が受診する人もわかりやすいと思う）。</p>
<p>他院より当院に転院してこられた患者さんから病院名に「脳血管」と入っているから、脳卒中の専門病院だとわかりやすく信頼できると感じた、と言われたことがある。地名より売りがわかりやすいとよさそう。</p>
<p>多少は元の名称を残さないとホームページでヒットしなくなる。そのため、トップの名称である脳血管を残すべきかなと思います。</p>
<p>誰がみてもどういう病院かわかる名称にすべきだと思います。さくらとかはまかぜとか老健施設のように曖昧です。</p>
<p>だんだん市の病院がなくなっていく中でやはり横浜市立を残してもらいたいです。</p>
<p>地名が入ったほうがどこにあるかわかりやすいと患者さんに言われたことがあります。</p>
<p>抽象的な名前は、わかりにくいのでやめたほうが良い。</p>
<p>脳血管、神経というひびきは、思いイメージがあるので、ひらがなを少し入れる。</p>
<p>脳血管医療センターという名称がある程度認知されているのでそれに近い名称のほうが違和感ないと思います。</p>
<p>脳や脊髄の名称が入らないと、一般市民から見て、何の病院かわかりづらい。総合病院なら「さくら」や「うみかぜ」「はまかぜ」等でもいいかもしれないが、診療可能な部位を病院名に入れた方が親切だと思う。</p>
<p>病院のイメージキャラクターに看護部のイメージキャラクターである「ライフちゃん」を使うのはどうでしょう。</p>

<p>部位等を名称に入れてしまうとDr.が不在になった時等科がなくなる恐れがあるので、そのようなことがないように一般的な総合名称にした方がいい。</p>
<p>増える可能性あるなら”市民第2病院”とかでもいいと思います。</p>
<p>他の都市よりも高齢化が早く来る横浜市であり、診療報酬改定に柔軟に対応するには、「病気」「部位」は不向き。</p>
<p>他の病院から転院されてきた患者さんが、病院の名前に「リハビリ」とはっていないので、リハビリがあるかどうかわからなかった、と言っていました</p>
<p>名称が決まったらアピールに力を入れてほしい。大通りに見やすい案内も出してほしい。</p>
<p>名称変更するのは良いが今までのイメージを変えるような病院にして頂きたい。</p>
<p>名称よりももっと他に取り組むべきことがあると思います。このアンケートの主旨とはちがいますが、スタッフが気持ちよく働ける環境を作ってください。</p>
<p>文字数が多くなると親しみやすさという点では難しく思えるのでひらがな等を名称に入れられたら覚えやすいのではないかと思います。</p>
<p>横浜市立〇〇〇病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中センター ・脊椎センター
<p>横浜市立市民病院を横浜市立病院としてここは「分院」とする。</p>
<p>呼びやすさ覚えやすさが必要だと思います。</p>
<p>呼びやすさや覚えやすさの点からあまり長くなくシンプルな名称がいいと思います。</p>
<p>リハビリテーションを入れる</p>
<p>わかりやすい病院名は地域に愛されると思います。</p>
<p>私は30年当院の近くに住んでいますが、滝頭という地名の認知度は磯子区民の中であっても低いです。岡村や根岸が10km圏、根岸に関してはJRの駅名や三溪園の最寄駅という事で20km圏位の知名度があると思います。</p>
<p>あるいは、変えない。患者さんや家族のニーズはあまりなさそうです。</p>
<p>今迄通りで良いと思います</p>
<p>現行のままで十分解かり易く変更不要に思います</p>
<p>このままで良いと思います！</p>
<p>変更なしでもよいとは思う</p>
<p>無理に変更する必要ない。何度も似たようなアンケートを書いてムダだと思う。</p>
<p>名称を変える必要があるのですか？現状で良いと思うのですが。</p>

2. 具体名称

ISSO-GO病院
磯子滝頭医療センター
さくら医療センター
さくら再生医療センター
市民専門医療センター
滝頭いきいき病院
滝頭医療センター（2件）
滝頭再生医療センター
滝頭脳脊髄医療センター
根岸の里脳神経病院
脳・脊椎・さいせい病院
脳血管 神経 脊椎 医療センター
脳神経・脊髄センター（Brain and Spine Center）
脳神経総合医療センター
脳脊神経医療センター
脳脊髄医療センター
はまかぜ滝頭医療センター
浜桜病院
横浜再生医療センター
横浜市民医療センター
横浜市民病院磯子脳神経センター
横浜市立磯子脳血管センター病院
横浜市立桜愛病院
横浜市立市民医療センター
横浜市立脊椎脳血管医療センター
横浜市立滝頭医療センター病院
横浜市立滝頭病院（2件）
横浜市立脳血管脊椎センター
横浜市立脳血管脊椎センター病院
横浜市立脳血管せきつい地域中核病院など。
横浜市立脳神経脊髄医療センター
横浜市立脳脊外センター
横浜市立脳脊髄医療センター
横浜市立脳脊髄リハビリテーション病院。（但し、他の科が増えないのであれば）
横浜市立脳脊椎神経センター友愛
横浜市立脳脊椎センター
横浜市立南医療センター（south yokohama municipal medical center）
横浜市立横浜南脳脊髄医療センター
横浜神経リハビリテーションセンター
横浜脊椎脊髄脳血管センター
横浜脊椎脳血管医療センター
横浜脳神経センター病院
横浜脳脊髄医療センター
横浜ローズ病院

**脳血管医療センター新名称についてのアンケート
ホームページ上アンケート集計結果**

実施期間:平成26年5月1日～5月21日 回答数:28件 対象:広く市民		
Q1)あなたは「横浜市立脳血管医療センター」をご存知でしたか？(単一選択)		
項目	件数	割合
名前や概要について知っている	25	89.3%
名前は聞いたことがある	3	10.7%
知らなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
Q2)Q1で「ア」「イ」と答えた方に伺います。脳血管医療センターについてどのようなきっかけで知りましたか。(単一選択)		
項目	件数	割合
自分・家族・知人が入院・通院している(していた)	22	78.6%
イベントや講演会	1	3.6%
近所にある	1	3.6%
インターネット	1	3.6%
その他	3	10.7%
無回答	0	0.0%
Q3)横浜市立の専門病院(特定の病気や部位を対象に専門的な診療を行う病院)として、どのような病院名称がいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
部位	27	96.4%
地名	4	14.3%
イメージ	1	3.6%
その他	1	3.6%
Q4)具体的にどの部位を名称に入れたら分かりやすいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
脳	8	28.6%
神経	5	17.9%
脊髄	2	7.1%
脊椎	2	7.1%
脳血管	23	82.1%
その他	0	0.0%

Q5)具体的にどの地名を名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
横浜	5	17.9%
南横浜	0	0.0%
磯子	1	3.6%
滝頭	0	0.0%
久良岐	0	0.0%
その他	0	0.0%
Q6)具体的にどのイメージを名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)		
項目	件数	割合
市民	1	3.6%
さくら	1	3.6%
はまかぜ	0	0.0%
うみかぜ	0	0.0%
さいせい	0	0.0%
その他	0	0.0%
Q8)名称の最後を「病院」(例:市民病院)や「医療センター」(例:脳血管医療センター)などにするかを考えています。ア～エの候補のうち、どれがふさわしいと思いますか。(単一選択)		
項目	件数	割合
病院	2	7.1%
医療センター	24	85.7%
センター	1	3.6%
センター病院	0	0.0%
無回答	1	3.6%
計	28	

※自由記載は別紙参照

ホームページ上アンケート集計結果（問7）

具体的にどのような単語を名称に入れたらいいと思いますか。

名称は変更しなくて良

ホームページ上アンケート集計結果（問9）

具体的に名称案・ご意見があればご記入ください。

1. 名称に対する意見

従来からの「脳血管系」疾病に、脊椎・脊髄等の「中枢神経系」疾病の診療も加えた名称が、何を専門としている病院かを示し、解りやすいと思います。

脳卒中、脳梗塞を中心とする脳血管の専門病院として重要な役割を果たしてきたが、最近その機能が弱められる傾向にあるようだ。この基幹部分の一層の充実をはかることが重要である。

「横浜市立脳血管医療センター」がよい。脳血管の病気に先進的・専門的に取り組む貴センターは貴重な存在で、今後ますます重要性を増して行くものと思われます。専門性や先端性を鈍らせる名称変更は無用。

「横浜市立脳血管医療センター」という名称にすることを望みます

従来 of 名称で変更する必要なし

変更するのはよくない。

名称は変更しなくて良い

2. 具体名称

脳血管・中枢神経医療センター

横浜市立脳血管医療センター（9件）

横浜市立病院経営評価委員会運営要綱

制定 平成 24 年 3 月 28 日病総経第 264 号(局長決裁)
最新改正 平成 26 年 2 月 6 日病計画第 135 号(局長決裁)

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、横浜市病院事業の設置等に関する条例(昭和 41 年 12 月条例第 60 号)第 8 条第 3 項の規定に基づき、横浜市立病院経営評価委員会(以下「委員会」という。)の組織、運営その他必要な事項について定める。

(委員)

第 2 条 委員会は、医療経済や病院経営の専門家等のうちから病院事業管理者が委嘱する委員で構成する。

- 2 委員の任期は、委嘱された日より 3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は再任されることができる。

(委員長)

第 3 条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、委員会の会務を総理する。
- 4 委員長に事故があるとき、または、委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代理する。

(会議の運営)

第 4 条 委員会の会議は、委員長が召集する。

- 2 会議の議長は、委員長が務める。

(部会)

第 5 条 特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、委員会に部会を置くことができる。

- 2 部会の委員は委員長が指名し、病院事業管理者が任命する。
- 3 部会の委員の任期は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときまでとする。
- 4 部会に部会長を置き、委員長が指名する。
- 5 部会長に事故があるとき、または、部会長が欠けたときは、委員長の指名する部会の委員が、その職務を代理する。

(部会の運営)

第6条 部会は、部会長が招集する。

2 部会の議長は、部会長が務める。

(会議等の公開)

第7条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例(平成12年2月横浜市条例第1号)第31条に基づき、委員会の会議及び部会(以下「会議等」という。)を公開する。ただし、委員長又は部会長が会議等の運営上必要があると認める場合には、会議等の一部又は全部の非公開を決定することができる。

2 会議等の公開に関し必要な事項は、横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱の定めるところによる。

(意見の聴取)

第8条 委員長又は部会長は、会議等の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会及び部会の庶務は、病院経営局計画推進担当において処理する。

(委任)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則 (平成24年3月28日病総経第264号)

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年3月27日病総経第255号)

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成26年2月6日第135号)

この要綱は、平成26年2月19日から施行する。